



発足のつどいで「社長の悩み」語り合う

介護保険制度のスタートを機に、私たち看護師が法人を設立し、訪問看護ステーションを開設できるようになりました。今では、開設主体の4分の1を営利法人が占め、その半数は「看護師」が代表を務めるまでに増加しています。さらに、デイサービスや複合型サービスなどへと事業を拡大しているステーションも見受けられます。

しかし、看護を専門としながら自ら起業し「経営者」ともなり、事業を継続していくには未熟な点があるのも現状です。そこで、起業ナースが安定した経営を行ない、質を保ち、さらなる事業拡大をしていくための情報交換会・学びの場として、また今後の起業を検討する看護師への相談・助言を行なう会として、2014年3月に「起業ナースの会」は

発足しました。

「経営者」たる看護師の集いをめざして

私自身、介護保険開始と同時にステーションを設立し、無我夢中で突っ走ってきました。ステーション設立の申請方法や、訪問看護師としてのスキルアップ・スタッフ教育など「管理者」としての研修の場はあっても、「経営者」としての学びの場を得る機会はほとんどなく、気がつけば14年が過ぎていました。

「起業ナースの会」 起ち上げました！

起業ナースの会発起人代表
埼玉・はみんぐ訪問看護ステーション所長
埴真美子

このごろは大手企業も参入し、競争も激しくなっています。そうしたなかで、事業の安定・拡大を図るには、従来の「赤字を出さない」「経常利益〇%」といった程度の考え、また「財務状況は税理士さんにお任せ」という状態では、今後の経営に支障がでるのではないかと、経営者としてはあまりに未熟なのではないかという思いが膨らんできました。

そんなとき、全国訪問看護事業協会から「起業ナースが増えてきているから、

会をつくってみたい」とご提案をいただきました。正直なところ、「そんな会があるなら参加したいけど……」と、自分が首頭をとるとなると躊躇もありました。自分の足元すら見えなくなるときも、たくさんあるからです。しかし、脆弱な基盤ゆえに閉鎖に追い込まれるステーションの話も耳にするようになってきました。それは、いわば「明日は我が身」です。そこで、ご提案をよい機と捉え、「起業ナース」たちに声をかけていきました。同じような思いをもっているだろう看護師たちが集まり、互いに支え合い学び合って、事業の健全な発展を促していくことが、「起業ナースの会」の大きな目的だと考えています。

第1回つどいと今後

「発足のつどい——看護師だからできる起業のかたち」を、東京にて4時間にわたって開催したのは本年3月16日です。私を含む5名の発起人は東京・埼玉・静岡・岩手・兵庫と全国各地に散らばっており、それぞれの本来業務の傍らに、顔を合わせての打ち合わせもままならない状況でしたが、無事46名の参加者を迎えることができました。

ワールドカフェ形式で互いに語り合った前半は、「社長の苦労」「起業ナースの会に求めるもの」をテーマに、経営者としての日々の悩みから年商数億円規模の事業所経営の秘訣まで幅広い話題でおいに盛り上がり（写真）、活発な議論が行なわれました。後半、軽食をとりながら

の懇親会では、和やかな雰囲気の中情報交換をすることができました。

また、この日、次の7名の役員候補者が選出されました。阿部智子さん（東京・訪問看護ステーションけせら）、木戸恵子さん（東京・訪問看護ステーションはーと）、高橋栄子さん（岩手・訪問看護ステーションありがとう）、土田孝行さん（北海道・訪問看護ステーションかえで）、筆者・埴 福田陽子さん（兵庫・はな訪問看護ステーション）、和田博隆さん（高知・訪問看護ステーションナースケア）です。会員は、「正会員（起業ナース）」「賛助会員（応援ナース・団体、起業を志す看護師）」「学生会員」から成り立ち、当日に20名のご入会もいただきました。

本年6月28日には、第1回総会も予定しています。ここで正式に規約を決定し、役員選出や予算・事業計画などについて提案・承認いただくこととなります。まずは会員を得て会を成立させること、また活動の発信方法など課題も山積していますが、発足のつどいで要望が多かった「財務」や「法務」についての勉強会・開設相談や「海外研修」など展望は広がっていきます。私自身、地域や今までの研修では得ることのできなかつた貴重な仲間との出会いに、喜びと感謝を感じています。このような会を通じて、「経営者」のもつ孤独や悩みを分かち合い、それぞれの活力となることにおおいに期待して会の運営に当たるつもりです。起業ナース&応援団のご入会お待ちしています。お気軽に下記までお申し込みください。

埴真美子（はなまみこ）

はみんぐ訪問看護ステーション
humming@adagio.ocn.ne.jp